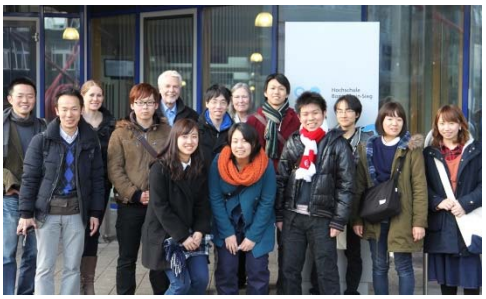
ボン＝ライン＝ズィーク大学（ドイツ連邦共和国）

（Ｆａｃｈｈｏｃｈｓｃｈｕｌｅ　Ｂｏｎｎ-Ｒｈｅｉｎ-Ｓｉｅｇ）

交流協定締結年月日：2000年12月15日　主管学部：経済学部

大学訪問（ベッカー教授の講義）

キャンパス（ザンクト・アウグスティン）



平成26年度　協定校訪問の様子

国際交流の特色（大学紹介）

ボン＝ライン＝ズィーク大学は旧西ドイツの首都だった、ボンの郊外、ザンクト・アウグスティンとラインバッハそしてヘネフにある。ライン川とボンを挟む三つの大学キャンパスそれぞれに経済学部があり、4年間の教育課程のうち前半の2年間は共通のカリキュラム、後半の2年間はそれぞれ独自のカリキュラムによって教育を行っている。この大学は統一ドイツの首都がベルリンに移った後、その補償として1995年にまったく新しく創立された、二つの経済学部と三つの理工系学部からなる大学である。大学の基本方針として、「国際的、実践志向、学際的、そして女性に対して公正である」ことを掲げている。学生の相互派遣（留学および工学部を中心に実施しているインターンシップ）の他に、経済学部を中心にボン＝ライン＝ズィーク大学訪問（3月実施）、集中講義の講師招聘（2002年度・経済学部）、学生グループの交流訪問（2012年度、工学部）などの交流を行っている。

交流実績（平成24年度～26年度）

経済学部

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生派遣数	0	0	0
学生受入数	0	0	0
大学訪問者数	18	12	9

工学部

国際インターンシップ学生の受入・派遣

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
受入	0	1	0
派遣	17	1	1

経済学部学生からの声

2006年10月から1年間、ドイツのボン＝ライン=ズィーク大学に留学し、様々な体験をすることができました。最初はほとんどドイツ語がわからず、授業は理解できないし、日常会話もままならず、どうなることかと思いましたが、友人、先生なんかに恵まれて徐々にドイツ語も理解できるようになり、人間的にも成長できたと思います。ドイツ人学生の講義、勉学に対する姿勢は日本人学生と比較にならず、感銘を受け、おおいに刺激を受けました。2007年4月からの夏学期には経済数学の単位を取得することができました。これは本当に嬉しかったですし、これからの人生に対しても自信になりました。また授業だけではなく、サッカー観戦やオペラ鑑賞、ドイツ国内や近隣諸国の観光なんかも楽しむことができ、本当に充実した1年でした。経済的にも日本学生支援機構の奨学金を得ることができ、本当に助かりました。香川大学経済学部には様々な奨学金制度があるので後輩には是非、ドイツ留学にチャレンジして欲しいですね。

浅野　修

工学部学生からの声

私は平成25年9月末から約3ヶ月間、ボン＝ライン＝ズィーク大学で国際インターンシップ生として研修をさせていただきました。私の配属された研究室には、異なる研究のバックグラウンドを持つ多くの学生・研究者の方が所属しています。研究活動を通して、工学的な専門知識を得たり、語学力の向上を図るだけではなく、異国の文化に直に触れることで、自分を見つめ直し、新しい価値観を得ることができたと思います。初めての海外生活は、毎日が新しい経験の連続でした。したがって、日常は大変目まぐるしく退屈している暇がありません。もちろん楽しいことばかりではありませんが、日々の何気ない出来事一つ一つが、私にとってかけがえのない経験となり自分を強くし、成長させてくれたと感じています。きっかけは人それぞれだと思いますが、「行ってみたい！やってみたい！」という素直な気持ちが1番大切だと思います。後輩のみなさんにもぜひこの制度を利用して、素晴らしい経験をしてきてほしいと思います。

工学研究科　　清家　都宏

ボン=ライン=ズィーク大学
(Fachhochschule Bonn-Rhein-Sieg)
ホームページ　https://www.h-brs.de/de

●学部学生　7352人（2014/15冬学期）